

ここでお経の出番となります。死んだ人にお経を読んであげて、「あなたの未練は、たんなる欲なんだから、そんなものは捨ててしまつて極楽浄土に行つてくださいね。」

と説得するわけです。

お経には

「欲を捨てなさい」

「欲がない人が最強です」

と繰り返して説かれていくものが多いのです。死んだ人の魂をなぐさめて、極楽浄土に送つてあげるにはうってつけですね。

() 、お経を読んでももらえないと、極楽浄土に行くことができず、魂がこの世に残つてしまう場合があります。

() 、ありがたいお経を読んでもらったにもかかわらず、がんこにこの世にとどまり続ける魂もあります。よほど強い未練なのでしょう。

このようにしてこの世に残った魂のことを、私たちは「ゆうれい」と呼びます。お経を読んでももらえなくても、この世に魂が残る場合というのは、よほど強い思い残しがあったに違いありません。() 、ゆうれいのほとんどが

「うらめしや」

と言うのです。

何かをうらんでうらんで、死んでも死に切れないほどやしい思いが、この「うらめしや」の五文字にはこめられています。

() 、ゆうれいとは、何かの事情で、死んでも成仏できなかった人の魂のことを指します。

ゆうれいは恐ろしいものですが、実は私たちはゆうれいで楽しんでいることがあります。心霊写真を見てこわがったり、ゆうれいの出てくるこわい話(怪談)を読んだりします。こわい話はほとんど作り話です。同じように、心霊写真も作り物です。今では、画像の加工ソフトを使えば、家でも手軽に心霊写真が作れるようになりました。

その一方で しかし だから このように

視写



音読

